よりは一條の煙も見えず只僅かに罷業決行の日五日晩頃より兎も角も熔鑛爐骸炭工場發電所等鎔場の作業に復したるのみにて六日夜の如きは夜半一時頃までは構内各所に罷業職工の騷擾喊聲絶ゆる間なかりしが幸にして

▲暴行 を働くものは見當らざりし而して七日より工場内の職工全部は一齊に怠業狀態となり憲兵警官七百名餘嚴格なる警戒をなしつゝあり勞友會職工總事務所本部たる八幡警察署

見る事少くそぞろに場内は不穩となれるものゝ如く思はる又六日まで八幡驛に堆積せる

▲石炭 五十六臺は日々夜に至りて全部場内に運搬されたり七日午後六時は職工側の要求容れざれらるが容れられざるかの職工等の進退を決すべき時なるを以て斷じて參觀を許さず勞友會職工等は幹部拘引されたるを以て更に五名の代表委員を選定し午後六時を期し中川次長に會見回答を聞く事と也居れり

同情して兎角怨嗟の聲を絶たざりし一方勞友會は會員より會費一圓宛を徴收しゐたるが會員中には其の會費は何故に支出するものなるやこれを出すとすれば

▲會員 にも相當利益ある運動を要求せざるべからずと幹部に迫るものも少からずして幹部をして一層決心を大ならしめたるものゝ如き折柄の修繕工場の不滿は火上更に薪を添へ遂に今日の不祥なる狀態に立到らしめたるものゝ如し

中川製鐵所次官は職工側の要求に對して其回答期を約したるに となく職工側の委員の只勝手に定めたるものなりと否認せる一方職工側は委員は次長と會見の際其回答の來るべき時間につき種々の談話を交換すれ共時間は次第かその回答時期を認めたるが如友會の書記山田某がその側にありて會見始末を筆記したるものにて知り得べしと稱し居りて兎に角職工側は今夜の當局の回答如何を待構へ居りて製鐵所側が問題の大にして急速に解決すべきものにあらずとして回答をなさざるやも知れずして兎角本夜の六時後は頗る注目するに足るものありて友愛會は六時不調となるに於ては勞友會と同一態度に出づることゝなり居れりと

同盟罷工	同十五日	四日	不明
同	同廿二日	三日	不明
寄宿閉鎖	同十七日	繼續中	
怠業	同十八日	三日	不明
同盟罷工	同廿六日	五日	半成功
同	同廿八日	二日	半成功
同盟罷工	同廿七日	三日	不明
工傷閉鎖	同廿七日	繼續中	
同盟罷工	同廿七日	三日	不明
同盟怠業	同廿八日	二日	不明
同盟返地	去十二月五日	四八日	移住
		百六日	

鐵工場、日本光學會社、紀州木材勞働を見るに至らざりしも不安と動搖の危

▲同盟罷業の遠因

幾多の經路を經て 今回の爆發を來たす

今回の同盟罷業問題は今日突飛の間に差起したるにあらずして幾多の經路を經て大爆發を來たしたるものなり即ち昨年七月西伯利亞出兵の頃物價の漸次昂騰して職工その他の勞働者を脅威を受け賃銀一日以下のものに對し二錢の要求をなしたるもこれにては物の足りとならざるより八月九月二回

▲要求 を重ね三割となり終に現在の給與となりたるものにて其後物價は鰻上りに上るも製鐵所にても容易に値上の實行は出來ざるものと七月頃よりは甚だしき怠業狀態を呈し生産著しく減退し職工等は時期を見て當局に要求を提出せんとする折柄二月一日其の要求の頭目と見られたる修繕工場の六名製鐵所より馘首されたるに彼我の間を調停せんとし別に不穩の行動もあらざりしに當局が此の擧に出たるは不穩當なりと痛く

▲激昂 し二日の食堂にて集會の折柄賃銀値上の急を論じ要求書を提出せんとしたるを製鐵所は機先を制し從來三分

▲勞友會に對する反感

漸く盛ならんとす

八幡製鐵所に人夫を供給しつゝある人夫供給會社にては七日中に金三萬五千圓を製鐵所使用人夫に對し拂渡すべき豫定にしてこれが拂渡しに關しても勞友會は何等かの妨害手段に出づべしとの風説盛なるより人心恟々たり而してその反面に何の必要ありて勞友會はかく横暴を働くかとて漸く勞友會專横に對する反感盛ならんとす

▲人夫六千名

歸還せしめらる

八幡製鐵所にては七日正午に到りてその使用人夫六千人を歸還

店